

洋書輸入協会会報

VOL. 22
NO. 6

(通巻254号) 1988年 6 月

理事会報告

4月27日(木)

(一) 63年度予算案他

定時総会に提出する63年度本部予算案(一般会計)、62年度決算案、特別会計報告案等につき、総会提出書類を最終的に確認した。

(二) 定時総会次第

原案通りに決定した。

(三) 理事長報告

原案通りに決定した。

(四) 新事務所の整備

衝立型黒板、円テーブル等を購入することとなった。

(五) 特別会計の資金運用

総務委員会で検討することとなった。

(六) コピー被害

新田満夫氏(雄松堂)から提起された書籍および雑誌のコピー被害については理事長報告で言及することとし、さらに総会席上で新田氏に説明してもらうこととした。

(七) 企画渉外委員会報告

本日開催された同委員会からの提案を委員長山川隆司氏(ユサコ)が説明した。①JBIAのイメージ・アッ

プのため各会員がレターヘッドにa member of JBIAをいれる ②勉強会を開催する ③委員会数の縮小。

③については総務委員会でも同じ意見がある旨報告され、委員会の再編成を新理事会への送り事項とすることになった。

(八) その他。

5月12日(木)

(一) 総会

午後2時から開催される定時総会の運営について打合せした。

(二) 日米大学図書館会議

現況につき事務局長から報告があった。申し込み期限を5月末日まで延期し、さらに総会で会員へ要請することとなった。

(三) 東京外郵便協議会

4月13日(木)に総会が開催され、会長に小林英一氏(洋書輸入協会・丸善)が再選されたことが報告された。

(四) 事務所

新設するテーブルおよび椅子の配置図および見積り価格について説明があり、発注することに決定した。

(五) その他。

理事会報告……………1	関西支部だより	書籍展示会のおしらせ……………7
定時総会報告……………2	関西支部長杯ゴルフコンペ……………3	海外ニュース……………7
文化厚生委員会だより	おしらせ……………3	おしらせ……………7
シロギス釣……………3	洋書輸入協会史(31)……………4	広 告……………8
	書物にかかわる歌〈その11〉……………6	

定 時 総 会 報 告

昭和63年度定時総会は5月12日(木)午後2時から学士会館(本郷)にて開催された。

正会員101社のうち、出席47社、委任状33社、合計80社にて総会は成立。その後の出席5社、賛助会員の出席は7社であった。

司会者、栗原氏(洋販)の開会のことばののち、小林理事長代理(丸善)から大要次のような挨拶があった。

「世界経済は望ましい方向へ展開しており、国内経済も内需中心の景気拡大が持続している。先般開催されたG5、G7は、この好調を長期化させるのが目的で、為替安定の成果が共同声明で発表された。

しかし、アメリカ商務省が発表した2月の貿易赤字が、昨年10月以来の高水準になったことで為替相場に波乱要因が生じ、また新たなG7合意が形成されるといった繰り返しにならぬよう望むところである。

一方わが国では、対米黒字が5年ぶりに減少し、貿易摩擦緩和への兆しが出てきたこと、また内需拡大策が好調なことから、引き続き景気は持続するものと考ええる。

このような環境・見通しであるが、わが洋書業界は難問山積である。洋書需要の低迷、情報媒体の変化、コピー問題、新型間接税等々である。会員各位が業界全体を見据えた広い視野にたって意見を出し合い、総会を成功させることを希望する。」

ついで理事会報告にうつり、小林理事長代理から、急激な円高の中で洋書業界は不当な利益をあげているかのような声があるが、洋書は年商500億円程度の小規模業種で、小売価格低下による需要増が期待できぬ商品であり、和書と違って洋書店が出版社同様のサービスもせねばならず、したがって為替相場に影響されぬ円経費高騰に苦慮している中で、会員各社は懸命な企業努力で値下げを実施してきたことを訴え、各方面の理解を求める努力をしたこと。また規約改正に伴う諸規定の制定、藍沢ビル老朽化による建て替えのための協会事務所の移転、英国出版社代表团、シンガポール出版業ミッションとの会談など62年度の活動が報告された。また、かねて案内

のとおり協会として寄付要請に応ずることとした第4回日米大学図書館会議募金について、重ねて会員の協力が要請された。

ついで各委員会報告にうつり、総務(丸善・松井氏)、会報(メクレンブルグ・鈴木氏)、企画渉外(ユサコ・山川氏)、ダイレクトリー(東光堂・石内氏)、洋書交換(国際・服部氏)、雑誌(日貿・杉山氏)、文教(紀伊國屋・吉本氏)、通関(洋販・栗原氏)、文化厚生(三洋・武田氏)から、それぞれ活動報告がなされた。

ついで昭和62年度決算報告が松井氏によりなされ、高橋氏(南江堂)、山縣氏(内外交易)の監査報告ののち、拍手で可決、承認された。

ついで丹羽氏(緑書房)から関西支部報告、昭和62年度関西支部決算報告がなされ、いずれも拍手で可決、承認された。

ついで選挙管理委員会(委員長、第一出版貿易、佐々木氏、委員、中央洋書・前橋氏、医学書院・西沢氏、海外出版貿易・田中氏、北尾書籍貿易・野田氏、メクレンブルグ・鈴木氏、ナウカ・鎌田氏、トッパン・関野氏、UPS・上杉氏、事務局・柴田氏)により役員選挙にうつった。一時休憩ののち、佐々木委員長から開票結果が発表されたが、当選者は次のとおりであった。

理事	投票総数 60票	有効 60票
当選	紀伊國屋書店 丸 善 三洋出版貿易 洋 販 ユ サ コ 第一出版貿易	極 東 書 店 日本出版貿易 國 際 書 房 中 央 洋 書 東 光 堂 書 店
次点	U P S	

監事	投票総数 61票	有効 61票
当選	内 外 交 易	南 江 堂
次点	紀伊國屋書店	丸 善

理事(関西支部) 投票総数 16票 有効 16票

当選 緑書房 北尾書籍貿易
次点 旭屋書店 オーヴィス
至成堂書店

監事(関西支部) 投票総数 16票 有効 14票

当選 オーヴィス
次点 独亜書院

総会を一時休憩して新理事会が開催され、互選の結果丸善が新理事長に再選された。小林理事長代理から、「全理事の推せんをうけ理事長を引受けた。今期から理事が2名増員されたので、新戦力を加え新たな覚悟で、山積している難問題解決に積極的に活動する。会員各位のご協力をお願いする。」との挨拶があった。

ついで松井氏から、昭和63年度予算案が、丹羽氏から昭和63年度関西支部予算案が出され、いずれも拍手をもって可決、承認された。

以上の議事が終了したのち、吉本氏が閉会の挨拶にたち、「雨の中、会員多数ご出席いただき、理事会原案が承認されましたことを御礼申し上げます。JBIAは現状維持でよいのか、変革を要するか、真剣に考えねばならない。業界の繁栄なくして一社の繁栄はあり得ず、業界発展のため協会へ協力したい。」旨を述べ、総会をとじた。

そののち、恒例の懇親パーティーにうつり、東光堂書店・石内氏の音頭による乾杯で宴を開き歓談のひとときをすごした。

文化厚生委員会だより

シロギス釣

5月28日小雨模様の中、参加予定者17名全員集合。定刻の8時に茅ヶ崎港を出船(昨年までは江の島でした)。降ったり、止んだりの中3時半まで釣果を競いました。事前に2回試釣に行った幹事は40~50尾が優勝ラインと読んでおりましたが、天候不良のためか成果があがらず優勝は40尾でした。それでも過去最高の釣果でした。

優勝 南江堂 若松 40尾
二位 テクニコン 楯 39尾
三位 丸善 田中 32尾
特別賞 太洋交易 中村 真蛸1匹

(三洋 武田)

関西支部だより

関西支部長杯ゴルフコンペ

第27回 5月14日(土)スポーツニッポンC. C.

参加者8名

	Out	in	Gro.	Hdcp	Net
優勝 浜岡 螢(南江堂)	45	44	89	14	75
2位 谷口定三(厚生社)	46	46	92	17	75
3位 前田敏雄(フックマン)	50	45	95	11	84

DC 賞 前田、松永(北尾)

NP 〃 畑(厚生社)、前田

ひとこと：南江堂の浜岡氏、第25回につづいて2回目の参加で堂々の優勝でしたが、またもや同ネットながら、年齢差で優勝を逃した悲運の将谷口氏に、いつまで続くか、花嫁の介添人！

(関西支部、hm記)

おしらせ

次の通り事務所移転の通知がありました。

新住所：

〒101 東京都千代田区猿楽町1-2-1

新日貿ビル

バターワース出版社 日本事務所

Tel. (03)291-3970 (変更なし)

Fax. (03)219-5260 (新設)

次の通りFax.設置の通知がありました。

有限会社 福本書院

Fax. (03)812-4716

Tel. (03)811-4292、(03)812-4716

洋書輸入協会史 (31)

洋書輸入協会顧問 相 良 廣 明

34 昭和27年(1952)度(s.27.4月～s.28.3月)の規約改正、新理事選出、新入会員、退会者など

34.1 規約改正

昭和27年5月16日の同業会総会において、同業会規約が次のように改正された。

記

規約第六条の理事長1名、理事3名を、理事長1名、理事4名以内に訂正。

34.2 新理事の選出

規約改正に伴い、理事が新たに1名増加となったので、同総会において理事改選と同時に新理事の選出が行われた。その結果

丸善株式会社

株式会社 国際書房

株式会社 教文館

福本書院

の4社の留任(理事長は引き続き丸善)と共に、新理事として株式会社 紀伊國屋書店(代表者 田辺茂一)が選出された。

34.3 新入会員及びその紹介

加入年月	社 名	代表者名	所 在 地
s.27.4月	リブレリ・メクレンブルグ	エルナ・メクレンブルグ	千代田区大手町2-8 朝日生命別館
s.27.4月	株式会社旺文社	赤尾好夫	新宿区横寺町55
s.28.3月	ナウカ株式会社	大竹博吉	千代田区神田神保町2-2

計 3 社

(1) リブレリ・メクレンブルグは現在の有限会社メクレンブルグ商会で、創立は昭和25年6月。同業会加入時の資本金30万円、従業員数4人。エリナ・メクレンブルグさんは昭和9年から日本在住、戦時中一時上海に居られたが戦後日本に引き揚げ、ドイツHeublein社の特約店などとしてドイツ書の輸入を始められた。昭和40年代の終りに老齢と健康の関係からドイツに帰国、昭和54年(1979)に79歳で亡くなられた。同社は共同経営者であった鈴木和夫氏が

引き継ぎ、今日に至っている。なおエリナさんは、故名取洋之助氏の前夫人であった。

(2) 株式会社 旺文社は、加入当時は資本金こそ2,000万円であったが、従業員は7名、創立は昭和19年9月。洋書輸入を始めたのは昭和24年4月からで、当時は活発に輸入を行っていた。その後洋書輸入をやめ、退会している。

(3) ナウカ株式会社は、加入当時の従業員10名、資本金25万円、昭和27年の創立であるが、代表者の大竹博吉氏(故人)は、昭和6年に第一次ナウカを創立しておられる。

34.4 退会者

昭和27年11月24日付で、株式会社東貿商会、代表者坂田武夫氏より、脱会届が提出され、同じく11月に三笠書房より退会の申し入れがあった。いずれも受理されたので、昭和27年度の退会者は2社となる。

34.5 会員数

昭和27年3月末現在で、同業会会員数は36社であった(JBIA 会報 Vol.21 No.8、昭和62年8月号所載、協会史(22)の24.2項参照)ので、s.27.4月～s.28.3月の新入会員が3社、退会者が2社であったために、昭和28年3月末現在の会員数は37社となった。

34.6 代表者変更、名義変更

昭和27年10月1日付、海輸第23号で、日本評論社は、代表者を鈴木利貞より鈴木行雄に変更し、また名義変更として、大丸書籍部・泉屋書店、代表者、尾崎義夫より、株式会社大丸、代表者、長野鉄夫とする旨会員に対し通知が出されている。

35 A・A停止とその解除の条件

35.1 ポンド地域のA・A停止

昭和28年(1953)2月14日、ポンド地域のA・A(自動承認)が突然停止された。A・A制は前年4月に発足したばかりであり、その年の8月に日本はIMF(国際通貨基金)及び世界銀行に加盟して、通商の自由、貿易・為替

の差別的待遇の撤廃をモットーとすることに賛同した。

しかし単純なライセンス制であるA・A制の対象貨物は未だ極めて限られており(注参照)、大部分はIQ制(輸入割当制)、AIQ制(自動割当制)であったので、A・A(自動承認制)の対象貨物となった書籍・定期刊行物といえども、外国為替の状況によってはいつそれが停止となるか分からないような時期であった。それだけにポンド地域だけとはいえA・Aの停止には非常に不安を覚えたものである。

(注) 日本は昭和30年(1955)9月にGATT(関税および貿易に関する一般協定)に加入し、IMF加入と併せて更に通商の自由、貿易・為替の差別的待遇の撤廃へと向うのであるが、このガット加入の時期においても、未だA・A制対象の貨物は16%にしか達しておらず、当時いかに厳しい輸入制限を行っていたかが分ろうというものである。

35.2 解除の条件

このポンド地域A・Aの突然の停止は、わずか4日後の18日には再開されたが、その条件として19日以後承認のA・Aライセンスは、

- (1) オープン アカウント地域を除き全部(ドル・ポンド地域)輸入期間を4ヵ月とする。
- (2) 担保金は5%となる。
- (3) 対外支払手段取極に関する特例を停止する。即ち承認後10日以内にL/C開設又は支払の条件を復活すること、及び分割送金を認めないこととする。

これらの措置に対し同業会理事会としても、昭和28年2月28日付、海輸第34号に書かれているように、通産省と再三折衝して条件の緩和を求めたが、「何分にも今回の停止は外貨資金不足による緊急措置であり、同業会の陳情には応じ兼ねるが、書籍及び定期刊行物の特性上止むを得ない場合は、個々の資料により審議承認されるはずである」との返事を貰ったにとどまった。従って会員に対しては、止むを得ない場合は出来るだけ詳細な資料を添附し、銀行へ持ち込む前に事前許可の申請をするよう呼びかけている。

(注) スターリン暴落

A・A停止及び解除の直後の昭和28年(1953)3月5日、スターリンソ連首相の重態が伝えられると東証ダウ平均株価が10%の大暴落を演じた。東京

もニューヨークも、軍需関連株を中心に売物が殺到したためであり、2日後の3月6日(日本時間)にはスターリンの死が報ぜられた。

この暴落は、スターリンの死により米ソ間の緊張緩和が予想されたためであるが、そればかりでなく朝鮮動乱以来の好況の中で株式が異常な過熱状態を続けてきたこと、そのかげで国際収支が徐々に悪化していたことが挙げられる。このたびのA・A停止もこのような背景の下に起ったものである。

35.3 輸入条件の緩和

昭和28年(1953)10月に入り、s.28.10~s.29.3月期のA・A輸入公表があった。このとき去る2月に強化された輸入の制約が或る程度緩和されている。10月5日付の海輸第49号では、これを次のように述べている。

記

今回よりかねて理事会として当局へ改正方を懇請しておりましたドル及びポンド地域の輸入期間が、特に6ヵ月となりまして誠に御同慶に存じます。

ただし分割支払い及び10日以後の支払いについては、従来通り対外支払手段の取り決めに関する事前許可が必要であり、また1枚の許可証で分割払いの前金合計が36万円相当額(1,000ドル)以上になる場合は標準外決済が必要となりました。(中略)

なお担保金はドル及びポンド地域は従来通り5%です。オープン・アカウント地域は3%(従来1%)となりました。(以上)

以上のように条件が若干緩和された部分があるが、担保金などは寧ろより強化されており、まだまだ国際情勢が厳しいことを思わせている。なお担保金については、昭和27年10月19日付、海輸第28号で「担保金の算法の改正について」が会員に通知されており、また昭和29年7月には「担保率引下げに関する請願」がなされているので、記事がこの請願に及んだときにまとめて記述することとしよう。

36 フランス書文化展の開催

昭和28年(1953)11月24日より30日まで、フランス書文化展と銘打って展示会が開催された。戦後の海外出版物輸入同業会の再建から洋書輸入再開への努力、英・仏

使節団経由の輸入、ガリオア・エロア資金による輸入、
為替割当制下の民間貿易の再開、A・A 制への移行とめま
ぐるしく情勢が変り、一方で極東貿易事件の後始末に忙
殺されるなど、幾多の紆余（うよ）曲折を経た洋書輸入
も、昭和28年に入るとやや安定を見せ、フランス書文化
展の開催が年間最大のイベントとなった。

うちフランス側負担75万円、同業会側負担25万円
○参加出資額：右負担額を、会員中の参加希望者に坪1
万円の割で御出資を願う。（以下略）

（続く）

36.1 フランス書展示即売会の企画

昭和28年(1953)2月10日の理事会で、Centre du Livre
よりの提案が検討された。即ちサントルとフランス外務
省文化部と、海外出版物輸入同業会の3者が提携してフ
ランス書の展示即売会をやらないかというものである。
理事会としては、更に19日の臨時理事会においても検討
を重ね、原則的に賛成し、出来るだけ協力するという態
度を決定した。

これを受けてサントルのベルナール氏が渡仏し、3月
9日にフランス外務省展覧会委員会と打ち合わせた結果
を文書にして同業会宛送附してきたので、同業会は4月
8日に懇談会を開いてこれを検討した。出席は理事5社
の他に三越、海外出版貿易、明治書房、旭屋書店、エン
デルレ書店、日本出版貿易、欧明社（参加予定のところ
が当日所用により欠席）の計12社の参加となった。

36.2 フランス書展の企画軌道に乗る

フランス書展はその後も検討が継続され、5月の同業
会総会席上で次の書類が配布された。

記

海輸第43号 昭和28年5月22日付

フランス書展の件

かねて4月4日付海輸第39号を以て御案内致しました
フランス書展については、開催御希望の要旨に基づき
色々具体策を研究中のところ、大体左記の通りの案がま
とまりましたので、取り敢えず会場借り入れの申し込み
を致し、この旨サントルを通じフランス側へ連絡方を申
し入れましたから、左様御了承の上参加希望者は別紙に
より御申し込み下さい。

○会期：10月下旬、10日間

○会場：プリジストン・ビル（1階約60坪、うち半分を
展覧会場、半分会員の展示即売会場とする）

○経費：総額約100万円

書物にかかわる歌〈その11〉

焼あとに掘りだす書はうつそみの屍のごとしわが目の
もとに
齊藤茂吉

第6歌集「ともしび」所収。作者は3年間の留学生
活を終えて、大正13年11月マルセイユより榛名丸に乗
船して帰国の途についたが、12月30日香港、上海間の
洋上で青山脳病院が失火にて全焼、との電報を受け
取った。帰朝後の研究生生活に備えるため、異国での生
活を切りつめて買い集め、送り出していた膨大な量の
洋書と、万葉集などの蔵書は本人の帰国の直前にすべ
て無に帰したのである。

こうした本の中には、Wundt, Psychologische
Studien 10巻 Kräpelin, Psychologische Arbeiten 7
巻などがある。

上掲の歌を、「私は雨の降らぬ日は折があれば書物を
掘っていた。自分の如き者にとって書物は唯一の品物
であったが、こうして焼けている書物を見ると、ただ
無生物のような気がしないのである。」と茂吉は後年
「作歌40年」の中で自解している。

「小生の書物もいよいよ船で出帆のよし、実に難有
い。あれは小生の宝です。」と書簡にも記したこれらの
文献を失ったことが、作者の医学界での学究生活を断
念させ、作歌への一層の傾倒をもたらした一因となっ
たのである。

くろこげになりたる書をただに見て悔しさも既わ
かざるらしき
A.A.

書籍展示会のお知らせ——1988

第20回シンガポール・ブック・フェスティバル

9月3日—11日

20th Singapore Festival of Books

IBBY (International Board on Books for Young People) 第21回大会

9月26日—30日

IBBY 21st Congress, Oslo, Norway

第6回バルセロナ国際書籍展示会

9月27日—10月2日

LIBER '88. 6th International Book Fair

第40回フランクフルト書籍展示会

10月5日—10日

40. Franfurter Buch-Messe

第33回ベオグラード国際書籍展示会

10月25日—31日

33rd Belgrade International Book Fair

クウェート国際書籍展示会

11月2日—11日

Kuwait International Book Fair

図書館協会全国大会

11月4日—7日

Library Association National Conference, The Pembroke Hotel, Blackpool, England

モントリオール書籍展示会

11月17日—22日

Montreal Salon du Livre

第5回カイロ国際児童図書展示会

11月23日—12月6日

5th Cairo International Children's Book Fair

海外ニュース

「アメリカの書籍輸出急増」

アメリカの商務省が発表した統計によれば、1987年のアメリカの書籍の輸出額は7億3千930万ドルで、前年より22.4%も増加した。なお、輸入額は7億4千380万ドルで、前年よりわずか6%の増加にとどまったから、書籍に関する限り貿易収支の赤字は約1億ドルから450万ドルへと大幅に改善された。

輸出が大きく伸びた分野は、ペーパーバック本(26.8%増)、教科書(25.3%増)、理工学書・専門書(24%増)などである。ドルが安くなって、アメリカの書籍が他国、とりわけイギリスの書籍に対し、著しく競争力を増したことが、この急増の主因であるとされている。

日本からの輸入額はわずか2.7%の伸びであったが、日本への輸出額は45%もの激増ぶりである。

(Publishers Weekly、4月22日号より)

—紀伊國屋書店提供—

お知らせ

「1987(昭和62年)1～12月洋書輸入統計とその分析」(相良廣明氏、本誌3月号)がユサコ株式会社の御好意により英訳されました。御入用の方は同社にお申しこみください。(電話：505—6471、Fax：593—2709)

現代における哲学の全領域を俯瞰し、最新の展開と方法論を解説!!

(英語版)『哲学百科事典』
(一巻本)

AN ENCYCLOPAEDIA OF PHILOSOPHY

Chief Editor : Professor G.H.R. Parkinson, University of Reading

1988 : 03 900p. ISBN <0-7099-4024-6> 定価 Hard ¥18,000

(Routledge) - UK -

当書は、学部専攻生から研究者に至るまで、哲学および思想研究に携わる全ての方々のために、現代における哲学・思想を広範な視点から眺め直し、総括的にその展開と最新の方法論とを解説した百科事典です。全体は、全37章に分けられ、各章ごとに哲学研究の主要テーマが解説されます。本書の重点は現代思想に置かれ、その諸問題の検討の他、各章末には、注釈付文献目録が掲載されています。また、哲学専門用語集、哲学・思想の推移を示す年表及び、人名索引が収録されています。

現代における哲学体系の総括的な解説書として、また研究室常備の参考便覧図書として、広くおすすめ下さい。

社会科学分野のあらゆる研究家及び大学院生必携の書!!

(英語版)『社会科学百科事典』
(一巻本)

THE SOCIAL SCIENCE ENCYCLOPAEDIA

Edited by Adam Kuper & Jessica Kuper

1985 : 912p. ISBN <0-7102-0008-0> 定価 Hard ¥12,580

(Routledge) - UK -

当事典は、社会科学の全ての分野を網羅的に解説する最新の二巻本百科です。収録内容において類書を凌駕し、最新の知識と情報及び、諸研究の成果や傾向を要約、解説する優れた一巻です。

☆見出し項目約750……社会科学各分野の主要な主題のみならず、関連する学際分野も言及します。(例-生物学、教育、言語学、医学、心理療法等)

☆国際的な展望と寄稿者陣容……25ヵ国より総勢500人の専門家が寄稿。あらゆる主題が、最新の、しかも国際的な展望の下に吟味され、詳しく解説されます。

☆各分野、主題に関して、理論、研究方法及び研究課題が解説される他、関連図書目録と総索引が加えられています。又、世界的に有名な学者による主要分野の解説(マスター・エントリー)が加わるのも大きな特色です。

社会科学全分野の学者、専門家、及び各企業、報道や山版関係各社の調査部門の方々に広くお奨め下さい。



日本総代理店

株式会社 紀伊國屋書店

電話問合先
仕入流通本部内・卸部
(03) 439-0128

(新館) ☎156 東京都世田谷区桜丘5丁目38番1号 ☎(03) 439-0161

1988年6月 通巻第254号 洋書輸入協会 編集者 柴田 三夫

☎ 103 東京都中央区日本橋1丁目21番4号 千代田会館5階20号室 ☎271-6901 FAX.271-6920

☎ 530 関西支部 大阪市北区芝田1-10-2 第一山中ビル ☎371-5329